

新翔高等学校

実施日時	令和元年10月17日(木)
参加者	生徒120名、教職員50名、育友会5名、佐野区9名、老人クラブ等15名、新宮市防災対策課3名 計202名
実施内容	パーティションづくり、ワークショップ(非常持ち出し袋)、炊き出し・配膳訓練、聞き取り調査及び新宮市防災備品の見学、 α 化米の食事体験

1 実施概要

開催日	令和元年10月17日(木) 10:45~13:00
参加者	第1学年(120)、教職員(50)、育友会(5) 佐野区(9)、老人クラブ等(15)、新宮市防災対策課(3) 計 202名
実施内容	1 開会式 2 班別学習 ①パーティションの設置・解体および 防災実技講習(応急手当/心肺蘇生法、搬送法/ロープワーク) ②ワークショップ(非常持ち出し袋) ③炊き出し・配膳訓練 ④聞き取り調査及び新宮市防災備蓄品の見学 3 α 化米の食事体験 4 アンケートおよび感想文

2 事前の取組

事前学習 10月3日(木) 6限目 体育館	・防災スクールの目的や内容の説明 内容の説明では、昨年度の様子を使って説明する ・説明を受けた上で、参加する班別学習の選択をする ・クラスの防災委員は、説明のための学習をする 防災委員(生徒)の打合せ(当日の指導役としての学習)
-----------------------	--



3 主なプログラム

- ① パーティションおよび防災実技(体操服 更衣場所は体育館)
 - ・ダンボールによるパーティションの組み立て・解体
 - ・防災実技(応急手当/心肺蘇生法・搬送訓練/ロープワーク)
HR役員(防災委員)指導による防災実技の学習
- ② ワークショップ(非常持ち出し袋)
 - ・新宮市防災対策課の方から、非常持ち出し袋について説明を受ける
 - ・非常持ち出し袋の中身を班に分かれて考え、中身の内容を発表し、相互理解を深める
- ③ 炊き出し・配膳訓練
 - ・ α 化米200食分を保護者・教職員と共に取り組む



③ 聞き取り調査及び新宮市防災備蓄品の見学

・老人クラブの方へ

災害時に関する聞き取り調査及び
新宮市防災備蓄品の見学



当日の詳細な内容

1 開会式・諸連絡 10:45~11:00

2 班別学習 11:00~12:30

1 班 パーテーション及び防災実技

防災委員(10名)+他70名 計80名

11:00~11:40 A班 パーテーション 体育館(教員が指導) (40名)

B班 ①救護 キャリア (応急手当と心肺蘇生法) (10名+10名)

②搬送 武道場 (搬送訓練とロープワーク) (10名+10名)

11:50~12:30 B班 パーテーション 体育館(教員が指導) (40名)

A班 ①救護 キャリア (応急手当と心肺蘇生法) (10名+10名)

②搬送 武道場 (搬送訓練とロープワーク) (10名+10名)

2 班 11:00~12:30 ワークショップ 会議室 中央委員、体育委員(20名)

(講師は新宮市防災対策課) 佐野区住民参加

3 班 11:00~12:30 炊き出し・配膳訓練(配膳場所の設営含む)

調理実習室・調理実習室前 保健委員(10名)

(講師は教員) 保護者参加

4 班 11:00~12:30 聞き取り調査及び防災備蓄品見学 風紀委員(10名)

(講師は教員) 佐野会館(老人クラブ)

3 昼食(α化米) 12:30~13:00 食堂他 昼食のα化米を受け取り次第、解散

1 班では、A 班が先に体育館でパーテーションの組立および解体を行い、その後「救護」と「搬送」に分かれて防災実技訓練を行い、B 班は先に「救護」「搬送」に分かれて防災実技訓練、その後体育館でパーテーションの組み立て及び解体を行った。

救護班の「応急手当」では、三角巾を利用した止血法や腕の固定の仕方、また緊急を要するときのビニール袋を使った腕の固定法を行った。また「心肺蘇生」では、蘇生法の重要性を教員が説明した後、レサシアンおよびAED トレーナーを使って行った。「応急手当」と「心肺蘇生」の両方を体験できるよう生徒を入れ替えて実施した。

搬送班の「搬送法」では、単独および複数の救助者により、けが人を搬送する訓練を行った。さらに竹・毛布で簡易の担架を作成し、搬送する体験を武道場で行った。「ロープワーク」では、本校教員指導の下、ロープの結び方などに取り組んだ。「搬送法」と「ロープワーク」の両方を体験できるよう、生徒を入れ替えて実施した。

2 班では、ワークショップとして「非常持ち出し袋」について、新宮市防災対策課職員を講師に生徒・佐野区の方・教員(カード読み上げ係り)が5つのグループに分かれて会議室で取り組んだ。

3 班では、炊き出し訓練を生徒・育友会・教員が4つのグループに分かれて取り組んだ。各グルー

ブには、衛生指導等の面で育友会と教員が必ず入り、生徒と共に訓練を進めた。なお、炊き出しは調理教室、配膳は食堂で行った。また、訓練参加者の食事場所は食堂および校内とし、ごみ処理の指導についてもごみ箱周辺や校内を教員が巡視した。

4 班では、老人クラブの協力を得て、学校近くの佐野会館で、災害への備えやその時の行動、私たち高校生にできること等、老人クラブの方々に聞き取り調査を実施した。その後、新宮市の防災備蓄品の見学を行った。聞き取り調査の集計結果は老人クラブに報告した。

4 参加生徒感想文(抜粋)

1 班 パーテーション及び防災実技

・毛布と竹竿で担架を作って負傷者を運ぶ実習をしました。災害の時には担架などが近くにないので、身の回りの物で担架を作ることを学びました。また、後半では避難所で生活するために、ダンボールで囲いを作ることを学びました。今回の学習を行うのに行わないのでは、全く違うと思いました。今回学んだことはきっとどこかで役に立つと思います。

2 班 ワークショップ (非常持ち出し袋)

・防災スクールで得た物は「判断力」です。ワークショップに参加して、災害時に何を持っていくか何が大切かということを知り、選択することの大切さがわかりました。また、高齢者の方は薬なども必要だということを知ることができました。避難所では他の人たちと協力していきたいと思いました。

3 班 炊き出し・配膳訓練

・非常食のご飯の炊き出しを体験しました。最初はこれでご飯が炊けるのか？と心配でしたが、おいしく出来上がりました。災害時に避難所で非常用ご飯を見つけたら、積極的に炊き出しなどを手伝おうと思いました。大きな地震が来る前に学ぶことができてよかったです。いろんな人に知ってもらいたいので、家族や友達にも教えようと思います。

4 班 聞き取り調査及び防災備蓄品見学

・聞き取り調査をして、家族と住んでいる高齢者は安心だと思っていましたが、家族と住んでいても娘さんや息子さんは昼間仕事に出ているので、日中は高齢者が家に1人になってしまい不安に感じているということがわかりました。
・お年寄りの方は急な坂道を登り切れるか不安に思っていることがわかりました。防災スクールに参加していなければ気づかなかったことです。防災スクールは災害の事を考える良いきっかけになりました。

5 成果と課題

アンケート結果から、「体験内容はためになった」と参加者のほとんどの人が回答した。防災実技については、平成 30 年度から「多くの体験をしたい」という生徒の要望を踏まえ、実技講習について4つの実技の中から1つだけを選んで行っていたものを、「応急手当／心肺蘇生法」と「搬送訓練／ロープワーク」とし、2つの実技を体験できるように実施している。細かくグループに分かれることから、移動にとまどった生徒もいた。このため次年度は最初の体育館での指示を分かりやすくしたい。また、防災実技の担当教員は同じ内容を4回説明することになり大変であるが、より多くの教員が指導できるようになるために、担当を交代したり、教員に希望の部署を聞いたりしながら実施したい。

また、平成 30 年度からの取り組みとして、新宮市防災対策課の協力でワークショップ（非常持ち出し袋）を実施しているが、佐野区の方からは「生徒と直接会話が出来てよかった」と好評であった。

「炊き出し・配膳訓練」も保護者に参加していただき、生徒と交流しながらなごやかに実施することができた。来年度以降も多くの保護者していただけるよう呼びかけていきたい。α化米はふっくらとおいしく出来上がったが、お湯が沸かせない状況で作った場合、こんなにおいしくはできないだろう。と、ライフラインが停止したことを考えながら実施した。

聞き取り調査では、老人クラブの方々から「いざという時は、若い人の力を借りたい」「助けに来て欲しい」と直接言われ、生徒達の中に「共助」の意識が芽生えたのではないかと感じている。

来年度もさらに充実した防災スクールになるよう計画していきたい。